

WRI NewsLetter 19

No.

1976年9月18日発行 大阪市阿倍野区旭町2-2-2 うり-大阪発行 WRI-JAPAN (臨時特集号)

江川允通さんからの手紙 〈監獄法〉向題にむけて

(特集)

WRI NEWS 18号2面のハトリメンバーの

任務のみとつに、Vとくにそえ書きの部分を感じ動をもつて読みました。この手紙は昨日の会合に向けてかきました。この向題のネットワークは内部の現状が分からなくされて、いること、です。ところが通信制限のため途中で戻り切れトンプにひつてしまいました。一人でも多くこの獄中からの切なる声をきいてもらいたいと願います。と、という私信にそえて、びつしり六枚の便箋に次のことが書かれていた。できるだけ江川さんの文意をそとにわめようように抄出して、仲間に関心を！と訴える。

I 獄中者が受けている苦痛

A その性質の記述 1 外から加えられる直梅の肉体的苦痛は(すくなくとも)未決囚には懲罰を受けなければならないもの、トけである。① 寒さー北海道東北は知らぬが、暖房がない。それで未決囚は差入れ衣類で寒気をしのげる。既決囚は衣類をまきることができず、夜のフトとをたむ。② 固い床薄いフトン、かたくる痛む。③ 不潔の強制。入浴回数が少ないこと。その時間の短いこと。

それにはきふくことを禁じられて、さらに洗濯の制限。④ 終夜壁灯、くらくらとねむれぬもの、苦痛

2 欠乏の強制ー不足を強制されるための心理的肉体的欠乏。① 異性との性的接触の欠乏。② 酒・煙草・娯楽の欠乏。③ 既決ではさらに差入倉庫や向食ができないー即ち空腹とまぜいものさたべさせられる苦痛。

3 ように肉体的心理的苦痛を加重されることでの病発、身心の衰弱によつて苦しめられる苦痛。さらにその苦痛軽減の手段を奪われる。④ たとえは荷加こつても外用の鎮痛薬剤を用いることができない。⑤ 希望する医療機関の医療がうけられず、劣悪な監獄医療を強制される。4 拘束、監禁に伴つて、いわれのない不利措置を受けさせられる。⑥ 不健康な生活が強制され、その反面健康の保持、増進のための処置、配慮はすべて禁じられる。とくに栄養のバランスのとれていない悪い小量の食料、や運動の不足。⑦ 外部との交通(通信、面会)に加えられる制限。(これは私にとつては大切なAとして別記)

⑧ そのため市民とての権利義務の行使または履行ができない。若し

債権者け回収不能の損害をうけ、獄中者が扶養し保育したりした者の福祉(二)を損う。④自分で送んで労働し、賃金を得、それの自由な使用ができる。⑤職業によつては、自由回復後の生業を奪われる。(詩人は詩人でありつづけることを許されないか。不公平でないか。⑥手紙検閲、面会合意によるプライバシー侵害。

5. 獄中者と関係ある、家族を苦しめることで、獄中者に精神的な大きな激しい苦痛を与える。罪人家族に負荷をかける。6. 知る権利、自由の自由が奪われる。未決ではTVが見れない。勿論音楽映画演劇美術などの鑑賞はできない。夜ラジオをかけるが聴きたくない番組をまかされる。読者は三文小説をよむものとしが考えられていない。学術研究のための便宜は一切与えられず、著者の自由を奪われる。獄吏並みの低い文化水準に押し下げられ

17. 不條理、不便宜の強制(下)ハール。獄内を支配する、恣意、不條理

野蠻、無知、粗野の精神に服従させられる。⑧軍隊が規律の強制し、命令は向かい向らけ。⑨威辱的扱いでの人格無視。⑩尋常には礼儀正しい態度で接し、しかし、⑪論理矛盾、法的不当を指摘すると抗弁で懲罰、善い事を禁じられる苦痛。⑫獄中者同志アイサツをしても懲罰。仲間同志の助け合いがすべて禁じられる。⑬鳩や雀に餌をやつても懲罰。

10. 云々をなく移動環境選択の自由を奪われた苦痛。(これに△動物ですらなまるといふこと)未決囚は娯楽、運動の自由を奪われ、懲罰囚は運動(苦役)を強いられる。

A 通夜と面会について ① 懲役囚4級の向け月一回親族のみ、これは社会人として9死に外をらぬ残虐のまわりのある。②未決に就しては各施設が勝手にはやつていられない、捕房拘置所は特にひどいようである。③郵便物は週に三回一回二回(ハガキと封書)

※(上段を二行目より)④川刻みの日課がきめられ、時間と自由はきまらぬ。⑤それと仕方と面会が非難にまぬがれ(身体を損く時間制限の厳格さゆへ)不便不自由をしのがれ、て受取つた手紙(さかいた紙行を改行する)ことへの制限、筆記具はボールペン一本見一色。⑥新聞は当日分と引換えに前日分を渡さねばならぬ。新聞雑誌は月2回の申し込みだけ。その日中にまのと半月間読みのない。⑦所持出来ぬ衣類の制限からくる不便。⑧手紙検閲品用紙が自分でまめと一日ぬかしから之が程度に過ぎる。⑨

中絶(中絶)封書は便箋と紙。手紙は上は二面に分けられる。休日があるとそれ文宛信回がへらされる。⑩面会はウイイレデー、一日一回、五分間。(その日誰かあると、あと一人にまかす)

(B) 苦痛の認識の問題 1. 苦痛、C D E、さらにIIへと続くのだが余白がながい、手紙がCでされているので、加回につづけるものとする。
あつかい いま大杉らの差が家から呼ぶまで手紙の中からは出ないのをみずくのとりあつかい走り書き発行。乱筆を命令書、